

変わる時代の確かな視点

News Release

《ニッセイ基礎研特別研究プロジェクト》

「長寿時代の孤立予防に関する総合研究 ～孤立死3万人時代を迎えて～」 結果を公表します

2014年12月17日

株式会社ニッセイ基礎研究所（代表取締役社長：野呂順一）は、このほど、所内に設置した特別研究プロジェクトチームが「長寿時代の孤立予防に関する総合研究」の結果をとりまとめましたので、これを公表いたします。

本研究は、年間約3万人が孤立死していると推計されるなか（ニッセイ基礎研推計 2011.3）、高齢期に社会的孤立者を生まないための『原因と予防策』について、全国約6500名に対するインターネットによるアンケート調査※等をもとに分析し考察したものです。主な概要は以下になります。

※(株)インテージに委託し、当社のモニター会員から4世代6503名：①ゆとり世代（23-25歳、1647名）、②団塊Jr.世代（39-42歳、1889名）、③団塊世代（65-67歳、1862名）、④75+世代（75-79歳、1105名）を対象に調査を実施したものの（調査実施時期：2014年1月16～23日）

【研究結果の概要】

【社会的孤立者数の推計】

- 日ごろの質的・量的なコミュニケーションの状況から、社会的孤立リスクについて推定した結果、ゆとり世代、団塊Jr.世代の15%程度、団塊世代、75+世代の5%程度が、社会的孤立が強く疑われる状況にある可能性が示された。
- この出現率をもとに各世代の社会的孤立状態が疑われる者の人口を推計すると、全国ではゆとり世代で66万人、団塊Jr.で105万人、団塊世代で33万人、75+世代で36万人が、それぞれ社会的孤立が疑われる状態にある。

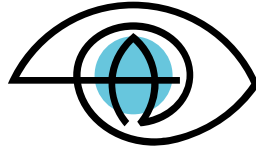
【社会的孤立者の特徴(傾向)】

- 社会的孤立リスクに関する属性的な特徴をみると、性別では男性で、男性の中では未婚、離別で、団塊世代の男性では死別でも孤立リスクが高い。一方、女性では、未婚、離別で女性全体に比べ高いものの総じて男性よりも孤立リスクが低い。



RESEARCH

株式会社ニッセイ基礎研究所 102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 | Tel.03-3512-1800 [代表] | Fax.03-5211-1058 | www.nli-research.co.jp



変わる時代の確かな視点

- 価値観と社会的孤立リスクの関係からは、次の志向を有する人が孤立リスクが高いと推定される。
 - ・《家族形成》「夫婦の意思を重視する」志向の人（夫婦間での依存性が高く、離死別後の影響が懸念）
 - ・《人づきあい》「他人に干渉されることを好まない」、「非対面（ネット）のつきあいを好む」志向の人（ただし、後者については団塊 Jr. 世代のみ）
 - ・《働き方》「割り切り」、「仕事優先」志向の人
- 住まい環境と孤立リスクの関係からは、自家用車に依存した生活環境に暮らす高齢層は、加齢や健康状態の変化に伴い運転ができなくなると、移動が制約されて、人との直接的なコミュニケーション機会が減り、高齢期の孤立リスクを高める。
- 将来（高齢期）の生活をイメージできていない人ほど、孤立に対する不安が大きい。

【社会的孤立問題に対する受け止め方(原因と予防等)】

- 高齢期の社会的孤立の問題に対する受け止め方は、「社会に問題がある（39.8%）」、「本人と家族に問題がある（31.0%）」、「自ら選択した生活であり問題ではない（23.1%）」と分かれる。
- 高齢期の社会的孤立の原因は、「地域における人と人のつながりの希薄化した地域社会の変化」と考える人が最も多い（61.2%）。
- 高齢期の社会的孤立を回避するには、若いときからの幅広い人間関係（量・質）の構築が重要である。そのためには、個々人が日頃から「家族」「人づきあい」「働き方」について見直していくことが必要である。
- また、企業や自治体等では、高齢期の社会的孤立に対する予防意識を高める取り組み、人とのつながりをより強化する取り組みが求められる。さらに、まちづくりの面では、公共交通の充実、都市機能の集約化など、自家用車依存を減らす取り組みを進めつつ、人々のコミュニケーションを促進する空間利用や空間整備、住まいづくりを推進することも重要になる。

※なお、弊社 HP に「長寿時代の孤立予防に関する総合研究報告書」を公表していますので、詳細は当報告書をご参照ください(http://www.nli-research.co.jp/report/misc/2014/p_repo141217.html)。

<この件に関するお問い合わせ>

株式会社 ニッセイ基礎研究所
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nli-research.co.jp
経営企画部・広報担当 三輪恭嗣
Tel.03-3512-1800 | yumiwa@nli-research.co.jp
生活研究部 前田展弘
Tel.03-3512-1815 | maeda@nli-research.co.jp

